

第4回地域・スポーツ振興賞受賞作品概要		
最優秀賞	タイトル	スポーツで「頑張ろう石巻！」
	応募者	特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター（宮城県石巻市）
	<p>作品の概要</p> <p>石巻スポーツ振興サポートセンターは、平成14年にスポーツを楽しむことができる「まちづくり」をめざしNPO法人を立ち上げた。震災前は、地域の子供達を対象としたキッズプログラムを始め、障がい者スポーツプログラムや楽ラク健康プログラムでスポーツ弱者への支援や高齢者の孤立化防止に取り組み、参加者からは「こんなに楽しいと思わなかった」との反響があるなど地域を巻き込んだ取り組みを実践し、各事業への参加者が増加した。</p> <p>震災後は、「東日本大震災・頑張ろう石巻！」を合言葉に、被災児童対象のスポーツ遊び提供事業である「わんぱくスマイルプログラム」や被災児童に運動具を贈る「わんぱく復興プロジェクト」、「まちなか復興プロジェクト」で被災地復興と地域活性化を図り、スポーツ振興に留まらず、被災地の地域づくりに大きく貢献している。学校の合併・併設を余儀なくされている市内の小学校で有名講師を招いての教室等は、子供達の成長・思い出づくりに大きく貢献している。今後は、被災地ウォーキングを発展させ、被災地ツーリズムとして運営していく。また、東京“復興”オリンピックにおける石巻会場誘致を進める。</p>	
優秀賞	タイトル	ありのままの地域の自然を活用したアドベンチャーレース「エクストリームシリーズ」
	応募者	エクストリームシリーズ実行委員会（東京都墨田区）
	<p>作品の概要</p> <p>エクストリームシリーズは、2005年から始まった日本初のアドベンチャーレースのシリーズ戦で、福島県檜枝岐村、栃木県那須烏山市、東京都奥多摩町、静岡県川根本町の4地域で開催されている。3名が1チームとなり、トレッキング、マウンテンバイク、カヤック、オリエンテーリングなどを駆使しながら、チームで協力してゴールを目指す。ありのままの自然を生かし、里山や林道など地域特有のコースがレースの舞台となり、地元の人も地域の再発見ができる。目的は、環境保護・自然保護、地域の宣伝、地域経済の発展等。また、観光振興の一環としても位置付けられている。</p> <p>レース中にチームで取り組む課題も取り入れ、伝統の和紙の紙すき、岩魚のつかみ取り、山人の方言や伝統芸能にまつわる課題など、地域を感じられる工夫をし、参加者も地元も共感を持てるような内容にしている。仲間が仲間を呼び、その地域の良さを口コミで発信し、観光地だけでなく日本には素晴らしい里山があり、きれいな川があり、フレンドリーな人々がいる、そういったことをアドベンチャーレースで伝えていければと思っている。</p>	
優秀賞	タイトル	トライアスロンと環境
	応募者	トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会組織委員会（神奈川県横浜市）
	<p>作品の概要</p> <p>横浜市は、2009年に開港150周年を迎え、その記念事業として「トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会」を開催。2012年9月には第3回目を開催する。この大会は、国際トライアスロン連合が、ロンドンオリンピックに向け新しいシリーズ戦として2009年よりスタートした世界最高峰の大会。コースは、歴史が集約された場所を巡る。スイムコースは山下公園前海域、バイク及びランコースは、山下公園、開港広場、神奈川県庁、横浜税関、赤レンガ倉庫等、歴史を感じさせるコースとした。</p> <p>大会開催を契機に横浜市は2007年に「きれいな海づくり」事業を展開。この結果、山下公園前海域での水質は、遊泳の判定基準となる「水浴場水質判定基準」では、遊泳可となるとともに赤潮対策も万全な対策を講じ、第1回を開催することができた。自然環境にやさしいトライアスロン大会を目指し、海底清掃や公園清掃の実施、横浜港で採取したヒトデ・ナマコ・カニ等を子ども達が直接触れるタッチプールの設置等、市民に横浜の海の豊かさと環境の大切さを知っていただいた。2011年大会では当日CO<sup>2</sup>排出量調査をしたところ約1,872tとなった。この排出量を基準として、排出の削減を目標に環境にやさしい大会を目指したい。</p>	

佳作	タイトル	森のウォーキングによる地域づくり ～智頭（ちづ）町森林セラピー～
	応募者	智頭町森林セラピー推進協議会（鳥取県八頭（やず）郡智頭町）
<p>作品の概要</p> <p>智頭町のキャッチフレーズは「みどりの風が吹く“疎開”のまち智頭」。人口は約8千人で総面積の9割以上が山林。鳥取県東部の源流域で、美しい空気・水・豊かな自然があり、鳥取砂丘を育んだ“源流の森”が広がる。智頭町では、森の持つ癒し効果に着目し、森のウォーキングによる森林セラピーはまちづくりのメインテーマの一つ。森林セラピーとは森林浴効果のことをいい、森林を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防を行うことを目的としている。平成21年7月に町民と行政が協働で企画・運営・実施するための組織として、智頭町森林セラピー推進協議会を設立。協議会は5つの部会「宿泊、食、体験プラン、森林セラピスト・トレーナー養成等」で構成。平成22年4月に智頭町全体がセラピー基地として認定を受け、7月にグランドオープン。森のガイドとともに、森の中で五感を研ぎ澄ましながらかゆったりとウォーキングする。平成23年度は11月までに1,544名の来客があった。50～60代の女性が多く、今後は若い世代、男性へのPR等に取り組む。</p>		
佳作	タイトル	みなかみ町と株式会社デサントによるスポーツ体感の場の提供 「みなかみデサントスポーツタウンプロジェクト」
	応募者	株式会社デサント（東京都豊島区）
<p>作品の概要</p> <p>群馬県みなかみ町と株式会社デサントは、スポーツをする楽しさを体感できる本物の場として、地域密着型、官民コラボレーションの「みなかみデサントスポーツタウンプロジェクト」を2011年7月27日に立ち上げた。四季折々のスポーツや様々なイベントを実施し、子供から大人まで楽しめる健康的なライフスタイルの提案を行っていくもの。現在、みなかみ町の観光客は、宿泊客100万人、日帰り客300万人の合計400万人。この数値を年率10%以上増やすという共通目標を立てた。株式会社デサントは「第54回デサント藤原湖マラソン」（2011年8月開催）に特別協賛し、優秀選手へのスポーツウェア・シューズ提供、有名選手の招待参加など大いに参加者から好評を得た。7月の「谷川岳山開きウィーク」・10月の「アドベンチャーフェスティバル」に出展するなどイベントを盛り上げた。小学生1000人を対象に田中光氏による“出前教室”「すこやかキッズスポーツ塾」を12月に開催し2日間6校をキャラバン授業した。夏冬、宿泊型の「デサントキッズスポーツ教室」も開催。</p>		
佳作	タイトル	兵庫神鍋高原マラソン全国大会
	応募者	兵庫神鍋高原マラソン全国大会実行委員会（兵庫県豊岡市）
<p>作品の概要</p> <p>兵庫県の北東部に位置する豊岡市神鍋高原は、四季折々の豊かな自然と温泉に恵まれ、スキー、テニス、パラグライダー、ゴルフ、キャンプ、溪流釣り等四季を通じて楽しめるスポーツ・レジャーのメッカとして年間100万人を超える観光客が訪れる。兵庫神鍋高原マラソンは、夏の一大イベントとして、神鍋高原を舞台に毎年8月の最終日曜日に、ハーフ、5km、10km、2kmのファミリージョキングの種目で開催。「神鍋山」を周回するアップダウンの多いタフなコース設定であるが、ランナーには本格的なマラソンシーズンに入る前の大会として、また、夏休み最後の日曜日に家族の思い出づくりとして、多くのリピーターにお越しいただき今年度で32回目を迎えた。大会当日はランナー（北は茨城県、南は沖縄県までの参加。定員5000人）、ギャラリー、スタッフなど合わせて約18,000人の人出で会場周辺はお祭り騒ぎになる。小学生の「ハイタッチ隊」や沿道の方々がランナーを応援し、ゴール後には地元小学生が育てた「花の苗」をプレゼントし、イベント広場ではスイカ、但馬牛のバーベキュー等が振舞われ、バンザイコーナーではスタッフが万歳三唱をし、ランナーの健闘を称える。</p>		